

『たびだち』で、あなたの「表現したい気持ち」を「記事」にしてみませんか

石井 英資^{えいすけ}

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会では、年に4回、季刊誌『たびだち』を発行しています。この雑誌からは、ひきこもり当事者やその家族、行政担当者、著名人といった様々な人の声が発せられています。また全国各地の居場所運営などの活動紹介、時事問題の解説といった情報提供型の記事も掲載されています。

どの記事をとっても、著者や取材対象者の真剣さや本音が伝わってきて、「なんとなく」や「ごまかし」のような軽さは感じられません。ですから、『たびだち』は胸を張って「ひきこもりについての総合誌」であると言えます。付け加えて言うなら、ひきこもりを扱った雑誌で、このような「総合誌」という形態の雑誌は日本でも唯一でしょう。

総合誌を発行することは大変です。様々な角度からの記事を用意する必要がありますから。逆にいうと、『たびだち』は書きたい記事を書くための土台をしっかりと用意しているからこそ、総合誌であり続けてきたのです。あなたや彼や彼女の、多様な「書きたい」「表現したい」を「記事」の形にするために、これまでにたびだち編集部は多くの人をサポートしてきました。

そしてたびだち編集部は、ひきこもり当事者・経験者、家族会関係者などが中心になって構成されています(編集長・池上正樹(ジャーナリスト))。

たびだち編集部が最も大事にしていることの1つに、商業的な視点を優先することなく、当事者目線を忘れない編集を心がけること、があります。たびだちはツイッターなどを用いて web でも記事紹介をしていますが、そうしたもののデータを見ていると、どのような記事が「よく読まれる記事」か分かることもあります。しかし、たびだち編集部ではそのような記事だけを増やそうという方針はとりません。

『たびだち』は、『たびだち』を読んだ人が、心が楽になる気づきや、どのような生き方をしたいかという気づきを得てほしいと願って作られています。そのため、決して1つの考え方や似通った記事を載せるのではなく、「記事が多様であること」も重要であるという考えに立っています。そこに優劣はありません。「多様な表現があること」、これこそが『たびだち』を支える重要な柱の1つなのです。

そんな『たびだち』で、あなたも自分を表現してみませんか。

この第3分科会では、あなたのアイデアや考えを自由にお話してみてください。それは「記事」だけでなく、『たびだち』の特集や、あなたの自由な創作物のお話でも構いません。私たち運営は、誰も否定することのない、安心して自分を出せる場を作ることに努めますから、どうか安心してお話してください。

またアイデアや考えがなくても、まとまっていなくても大丈夫です。他者の話を聴いているだけでも得るものがあることは多いです、ラジオ感覚で聴いていただいても全くOKです。

第3分科会当日、多様なアイデアや表現に出会い、それらが次の『たびだち』を形作るのを楽しみにしています。